



UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.186
2025.8.15

発行：浜松ユネスコ協会
発行人：会長 安藤隆敏
h_unesco_koho@yahoo.co.jp
編集(広報委員会)阿部行俊

2025年度 通常総会 開催

2025年5月31日(土) アクティシティ浜松研修交流センター

通常総会では、「2024年度事業及び決算の報告」「2025年度事業及び予算の提案」「役員の変更」があり承認されました。議事後には、伊東政好氏の講話が開催されました。



【会長挨拶】「言葉の暴力による新たな戦争を危惧」

浜松ユネスコ協会会長 安藤隆敏 氏

2023年度と2024年度は、浜松が県ユネスコ連絡協議会の担当となっていました。そのため、昨年、沼津ユネスコ担当で行われた中部東ブロック研究で「主催者挨拶」をさせていただきました。その大役を務めた沼津ユネスコですが、沼津市教育委員会がこれまで担っていた事務局としての協力ができなくなるとのことで、協会の存続そのものが危ぶまれています。

また、世界では、戦争が収まるどころか、激化していますし、「自由の国」と言われてきたあの国でさえ、リーダーによる言葉の暴力が「新たな戦争」の様相を呈しています。改めて、80年前、広島、長崎に原子爆弾を落とすという意思決定がなされた過程との類似点が見て取れ、大変に心配です。

このように暗いニュースが多い中ですが、浜松市においては、創造都市・文化振興課の生涯学習課が「ユネスコ科学教室」を市の委託事業と位置づけ、「私のまちのたからもの展」では共催事業、親子公園探検隊では後援事業、というように引き続き協力をしていただいています。関係する皆さんの御協力に感謝して挨拶とします。

(要旨抜粋)



【来賓挨拶】「地域の自然や文化から日本文化へ」

前衆議院議員 塩谷 立氏

子どもたちの将来のために、ユネスコの活動をしっかり進めていってほしいと思います。また、日本の文化を無形文化遺産に登録しようという活動が進んでいます。日本酒が無形文化財に登録され、書道も登録される予定になりました。生け花、温泉、俳句なども、日本の伝統文化としてユネスコで登録しようと活動が進んでいます。

日本文化に興味を持った海外からの訪問客も増えています。我々、日本人が知らないような場所にも外国人が訪れています。日本の歴史文化を見直すことが、私たちの責務でないかと考えています。

地域にある自然や文化に、直接、触れたり、出会ったりできる浜松ユネスコの活動を、今後も盛り上げていってほしいと思います。



役員改選

会 長：安藤隆敏
副会長：大石幹子 加藤泰弘 袴田正義
山内登志弘
監 事：桑原昌子 近藤良夫 宮本優子
〈敬称略〉



▲左から 安藤会長 大石副会長 加藤副会長 袴田副会長

【講話】 鉄道院浜松工場創業の秘話 — 浜松町民 必死の陳情 —

浜松郷土史研究家 浜松ユネスコ協会監事
伊東政好氏



日本最初の鉄道は、明治5年の新橋・横浜間の開通です。東海道本線の開通は、明治22年4月16日でした。工事は神戸からと東京からと双方から進められてきました。最後に天竜川に橋が掛かり、浜松駅ができました。そのため、開通した明治22年に浜松駅ができたのです。

東海道線の整備にともない、「鉄道院」というものができていました。初代の鉄道院総裁は後藤新平さんです。関東大震災のとき、東京の復興計画の立案・推進にも従事して大活躍をされた方で逓信大臣も兼ねていました。もともとは岩手県出身の医師で、名古屋の

愛知病院で診療をしていました。当時、岐阜で総理大臣が刺される事件があり、そのとき岐阜へ行き治療をしたそうです。医師としての力量も高く、医療のトップまで務めました。総理大臣に認められ鉄道院総裁や逓信大臣という職に就きました。

明治39年、国から静岡県に機関車から客車まで整備や修理する工場建設のため、32万坪の用地を準備するように要請がありました。そして、県知事から浜松町長に連絡がありました。当時の浜松町長は鶴見信平さんでした。浜松駅前にあった「大米屋」という老舗旅館の経営者でもありました。（浜松駅建設により伝馬町より移転）鶴見信平さんは、これからの浜松の発展のためには工場が必要と考え、誘致をしました。32万坪という広さは、現在のJR浜松工場の敷

地だけでなく、現在の浜松市保健所や県立浜松西高校までも含めた広さとなります。当時の地図には巨大鉄道工場用地と書かれています。32万坪の用地買収には巨額な費用が掛かります。予算の不足分は、地元の住人からのかなりの寄付でまかないました。縣居神社付近の山を削り、埋め立て工事までも行いました。

しかし、膨大な予算額と日露戦争による予算不足で、明治41年12月に工場建設の予算が全額カットされました。浜松町長と住民は浜松町民大会を開催し、予算復活を陳情することになりました。明治42年2月5日に編成された陳情団154名のうち131名が上京し、日比谷公園音楽堂前に集合しました。この時代に、これだけの人数で陳情することはありませんでした。用地を買収し、埋め立て工事も始めていた浜松は、必死の陳情でした。各町から参加者一人が8円を寄付していました。今の貨幣価値ですと8万円くらいです。しかし、これだけの人数での陳情は許されず、役員5名が代表となり総理大臣と鉄道院総裁に会うことができました。しかし、総理と総裁は予算不足であることを理由に陳情を一切受け付けませんでした。

その後、代表が東京に残り、陳情を続けた結果、明治42年3月10日に予算の復活が認められることになりました。復活した予算は減額され、当初予定していた32万坪の土地は6万5千坪に縮小されました。

JRの記念誌によると、明治42年3月下旬から4月上旬にかけて、後藤総裁が用地の下見に来浜されています。当時、モール街にあった千歳聴清館で接待をする予定であったが、接待を断り、浜松駅に停車している列車に宿泊したと記録されています。鉄道院総裁・通信大臣が列車に宿泊されたとは考えにくいです。下見に来たのは総裁ではなく、その部下たちではなかったかと思われる。

大正元年11月1日に浜松工場が創業しました。C56、D51、電気機関車など、あらゆるものを造ったり修理をしたりしてきました。現在はJR東海の新幹線専門の整備工場となっています。初めて浜松で製作された第1号のD51は、現在フラワーパークに展示されています。

現在、私は陳情団員154名の町名を調べています。約半数が分かりました。今後、残りの半数も調べて行きたいです。
(要旨抜粋)

2025年度 第1回科学教室

開講式・オリエンテーション

2025.4.29 (火) 地域情報センター

【来賓挨拶】 「科学の力でよりよい未来を」

創造都市・文化振興課 生涯学習担当課長
加藤元一 氏

近年、私たちは新型コロナウイルスの世界的蔓延を経験して、改めて科学技術の重要性を知りました。ワクチン開発、感染症の予防など、科学の力が私たちの生活を守るうえで大きな役割を果たしてきました。また、気候変動や持続可能なエネルギーなど地球規模に関わることも、科学の力が必要とされています。この教室では身の回りの幅広い分野について楽しく魅力的な体験活動が用意されています。

「面白いな」「不思議だな」と感じたことについて、学習を深めながら自然の不思議さや美しさに触れてほしいと願っています。

この教室を通して「人や自然を大切に作る心」「世界の平和につながる科学する心」が皆さんの心に築かれることを期待しています。科学の力でよりよい未来を創造する担い手となってください。
(要旨抜粋)



【会長挨拶】「世界の平和という視点をもって学ぶ」

浜松ユネスコ協会会長 安藤隆敏 氏

第二次世界大戦で、多くの犠牲者が出たのは、人を殺す道具として「科学」を間違った方向に発展させたからに他なりません。この反省から、教育・科学・文化の発展を通して「平和な社会」を実現しようとするのがユネスコ運動です。しかし、その推進の難しさが今、ウクライナとロシアによって示されていますし、中東でも危機が広がっています。



浜松ユネスコ協会は、今から77年前、1948年4月に民間ユネスコとして全国で5番目に設立されました。浜松市の支援を受け、浜松ユネスコ協会が特に力を入れてきた活動の1つが、この科学教室です。昨年度までの修了生は、4,128名です。

この活動に長く関わってきたことで、今年も嬉しい事実に触れることができました。それは、かつて、このユネスコ科学教室で学んだ子が、親となり、その子どもが参加してくれていることです。

世界では、食べ物がないための飢え、薬がないための病気、そして、戦争のために多くの人が死んでしまっています。また、言葉の読み書きができないために貧しい生活を余儀なくされている多くの人がいます。

「世界の平和」という大きな視点をもって一人一人が本物の学力を伸ばし、日々の生活を送れるようになってください。「科学」の究極の目的がここにあります。しっかりと心に留めて、ユネスコ科学教室をスタートさせましょう。
(要旨抜粋)



〈科学教室スタッフ〉

第2回科学教室

チョウと植物 チョウの不思議

「生命の素晴らしさを理解し、大切にできる人に」

2025.5.10(土) 浜松科学館

前半の講話では、チョウの種類によって、卵の形や色、産卵の仕方に違いがあることを学びました。また、幼虫や蛹は、鳥の糞や食草に擬態したり、警戒色と言われる赤や黄の色をまったりして、他の生物に食べられないように生きる知恵を働かせていることを知りました。さらに、自然界で生存することの厳しさについても知ることができました。

後半は本物のチョウに触れながらの活動です。主にジャコウアゲハやアオスジアゲハ、カラスアゲハ、モンキアゲハを観察しました。顕微鏡でみる卵の形の違い、キラキラ輝く鱗粉の美しさなど発見も多くありました。体験コーナーでは、アゲハチョウの口吻を針で上手にのばし、蜜の場所に気付かせ、エサを与えました。

今回、チョウを観察する中で、生物は生きるために多くの知恵をもち進化を続けてきたことを学びました。命の素晴らしさを十分に理解し、大切にできる素敵な人になってほしいと思います。
(宮澤謙斗)



第3回科学教室 微生物とホタル

「子たちに自然への関心と愛着を」

2025.6.7(土) 浜松科学館



子どもたちと一緒にホタルの観察を行いました。部屋を暗くし、虫かごの中でほのかに光るホタルを見つけると「わあ、光った。」と目を輝かせます。自然の光の美しさに、多くの子どもたちが見入っていました。観察の前には、ホタルの生態や生活環境について話をしました。ホタルは、きれいな水辺でしか育たず、豊かな自然の中でしか生きることができません。子どもたちは、「自然環境を大切に守っていききたい。」と素

直な思いを口にしてくれました。
ホタルの光は、静かだけれども、力強い生命の輝きであり、その一瞬の輝きが、命の重みを伝えてくれています。身近な自然と触れ合いながら、子どもたちが自然に対して関心や愛着を持ち、その思いを未来へつないでくれることを願っています。
(福池隼人)



西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育/地域唯一の女子教育/新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

ISO9001/14001 [品質/環境]・ISO27001 [情報セキュリティ] 認証取得



中部印刷株式会社

本社・工場 TEL:053-441-2431(代) FAX:053-441-7612

<https://www.chu-bu.co.jp/>

2025年度

第1回 親子公園探検隊(初夏の自然 in 佐鳴湖公園)

～「匂い」も観察ポイント～

2025.5.18(日) 佐鳴湖公園



駐車場付近でエノキの食痕をたよりに、ナナフシモドキをたくさん見付けました。次に噴水池に目をやると水面上にせり出した木の枝にモリアオガエルの「卵のう」がありました。この池では、ギンヤンマのヤゴも観察できました。さらに散策道を進むとアカボシゴマダラの白色春型成虫がすぐ近くを飛んでいきました。別の場所では卵も見し、特定外来生物の広がりとその扱いについて悩ましい説明もしました。

「匂い」も今回の観察ポイントでした。スイカズラ、トベラ、クサギ、トチノキ、イボタ、クスノキなどの匂いを嗅いで、見るだけとは違う自然との触れ合いができました。また、ムラサキカタバミの葉で「相撲遊び」を楽しむといった触れ合いもできました。

親子探検隊の原点を感じることができた活動になったと思います。

〈参加者：3家族 10人〉 (加藤泰弘)



2024年度

科学教室 閉講式

2025.2.22(土) 浜松科学館

2024年度科学教室が閉講式を迎えました。閉講式では参加教室生57名一人一人に修了証書が渡されました。また、全活動に参加した教室生には記念として、「サヌカイト(讃岐岩)」の標本が贈られました。

【来賓挨拶】「自然に学び、その仕組みを理解しよう」

創造都市・文化振興課 生涯学習担当課長
加藤元一 氏

みなさんは、この教室で身近な自然の中から多くのことを学びました。これからも、「なぜだろう」「不思議だな」「面白いな」と感じたことを深く調べたり、考えたり、詳しい人の話を聞くなど、意欲的に学んでください。そうすることで、さらに自然に対する知識が広がり、理解が深まり、もっともっといろいろなことをしたくなると思います。この浜松科学館の展示や実験教室なども積極的に活用してほしいです。



11月に秋の自然観察を佐鳴湖公園で行う予定でしたが天候の関係で中止となりました。台風から変わった温帯低気圧からの前線の影響で大気が非常に不安定となって、午後には暴風となりました。静岡県西部には竜巻注意報が発表されるなど、各所で被害が出ました。次の天文台で行われた天体観測は、両日とも天候に恵まれ観望することができました。

私たちは、大きな自然の中で生活をしていることを感じさせてくれます。自然に学び、その仕組みを理解することが、私たちの生活の安全や利便性の向上に必要なものと思います。このユネスコ科学教室をきっかけに、科学に対する興味関心を持ち続け、みなさんの世界を広げていってほしいと思います。
(要旨抜粋)

【会長挨拶】「人とのつながりを大切にして、よりよい自分づくり」

浜松ユネスコ協会会長 安藤隆敏 氏

この浜松科学館を作った当時の浜松市長、市の社会教育部長、教育委員の方々は、もともとユネスコ活動をしていました。そして、子どもたちに広く「科学する心」を育てて欲しいとの願いから、小学生対象のユネスコ科学教室は生まれました。浜松科学館が出来た次の年から、続けてきて38年目、これまでの修了生は皆さんを合わせると、36回で4,128人となります。



さて、こうしている内にも世界では戦争が行われ、多くの死傷者が出ています。さらには人々が育んできた歴史や文化も、そして、最も悲惨なことに、心までも破壊されています。使われている武器は、もちろん「科学」の産物です。科学は使い方によって、善にも悪にもなることを示しています。

だからこそ、ユネスコ憲章前文の言葉を大切にしたいと思います。それは、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」です。先ほどお渡しした修了証書には「科学する人の心構え」を示してあります。この心構えを今後の生活の中でも、持ち続けてください。そして、人とのつながりを大切にして、よりよい自分づくりを進めることを期待しています。
(要旨抜粋)

2024年度

第4回 親子公園探検隊(冬の自然 in 佐鳴湖公園)

～水鳥の減少に危惧～

2025.2.1 (土) 佐鳴湖公園

春を待つ木々の冬芽（綿毛におおわれたようなコブシ・べたべたの粘液を出すトチノキなど）の観察からスタートしました。藤棚の広場ではシリブカガシ・ツブラジイの実、噴水の池ではギンヤンマの幼虫（ヤゴ）を見ることができました。湖畔の散策道を進むとカルガモ・アオサギ・カワウなどの水鳥が見えました。フィールドスコープを使うとカワセミの鮮やかな青とオレンジの体色を観察でき、野鳥の世界に引き込まれていきました。

『水鳥の少なさ』が気になりました。UNESUCO HAMAMATSU No.152 (2012.4.10発行) に野鳥の会講師から「佐鳴湖の水鳥は数千羽から数百羽へ減少している」との説明があったことが報告されていました。10年以上前から、人間の活動（漕艇・宅地開発・ウォーキング等）が影響を与えているのではないかと危惧され、近年では温暖化も加わったようです。

親子公園探検隊の活動が、親子での共通体験を通して、動植物と人間との共存の意識を高める一助になっていることを願います。
 〈参加者：12家族 36人〉（加藤泰弘）

2025年度 浜松ユネスコ協会 今後の主な事業

〈市民大学委員会〉

- ・生涯学習セミナー
フィールドワーク（未定）

〈出前授業委員会〉

- ・小学校での自然環境学習講座
（入野小学校、その他は未定）

**〈自然環境委員会〉親子公園探検隊
（佐鳴湖公園）**

- ・どんぐりを中心とした木の実や紅葉の観察（11/8）
- ・冬の野鳥の観察（1/17）

〈平和委員会〉

- ・小中高校にて平和講座（未定）

〈学校委員会〉ユネスコ科学教室

- ・身の回りの化学（9/6） 浜松科学館
- ・天竜川と岩石（10/11） 天竜川河川敷
- ・木の実探索（11/1） 佐鳴湖公園
- ・神秘的な星の世界（12/20、27）
浜松市天文台
- ・ラジオを作ろう（1/24） 浜松科学館
- ・記念樹を植えよう、閉講式（2/21）
浜松科学館

〈地域・世界・未来遺産委員会〉

- ・第16回未来遺産
「私のまちのたからもの」展
12/6～12 展覧会 浜松科学館
12/7 表彰式 浜松科学館

※詳細はホームページで確認を

あなたも一緒に

会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向 会員数（2025.7.26現在）

賛助	法人	維持	理事
30	0	3	33
普通	学生	合計	
25	0	91	